



ビリー・グラハム

ひとりひとりの魂と向き合った伝道者

グラント・ワッカー [著] / 相川裕亮、田中稔十 [訳]

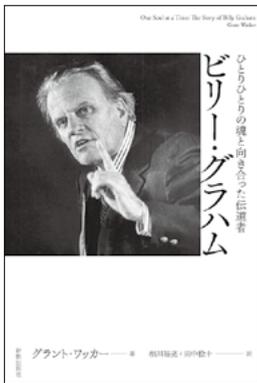
「福音派」の巨星の実像に迫る力作

スタジアムで大群衆に獅子吼する大衆説教者。

東西冷戦期に歴代大統領に影響を与えた祭司的預言者。

だがその実像は、ひとりひとりの魂に向き合おうとした伝道者だった。

このような人間はいかにして形成されたのか。その複雑な素顔にグラハム研究の第一人者が迫り、臨場感溢れる筆致で綴った最新評伝。



「彼は、世界中の何百万人もの人びとに、霊的なものの重要性を伝えた偉大な人物だった。ただ一方で、グラハムは他のすべての偉大な人物と同じく、性格に難があり、重大な過ちも犯してきた。

私はもちろん、長所が短所を上回っていると考えている。だが、そうした複雑さを見ていくことによって、私たちは彼の生涯から、現代世界における信仰の複雑さを学ぶことができるだろう。」(本書より)

著者: グラント・ワッカー (Grant Wacker)
1945年生まれ。ハーバード大学で博士号を取得。ノースカロライナ大学チャペルヒル校を経て、デューク大学神学大学院のギルバート・T・ロウ名誉教授。著書に Heaven Below: Early Pentecostals and American Culture や America's Pastor: Billy Graham and the Shaping of a Nation がある。

訳者: 相川裕亮 (あいかわ・ゆうすけ)
1988年生まれ。慶應義塾大学、同大学院で学ぶ。博士(法学)。金城学院大学国際情報学部准教授。著書に『ビリー・グラハムと「神の下の国家」アメリカ』がある。

訳者: 田中稔十 (たなか・なりと)
1995年生まれ。慶應義塾大学大学院助教。専門は西欧中世の政治思想。



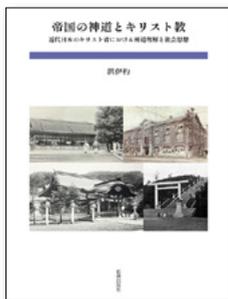
◆四六判・576頁・定価5390円

3月25日発売

帝国の神道とキリスト教

近代日本のキリスト者における神道理解と社会思想

洪伊杓 [著]



明治期の代表的なキリスト者であった海老名弾正は、キリスト教が日本の国体に寄与しうることを弁証するため、神道に独特な神学的解釈を施し、キリスト教との結合を試みた。その神道観は、帝国主義時代に突入した大正デモクラシー期の社会思想にも大きな影響を与えた。本書

は、海老名の神道観とその影響を丹念に辿った思想史研究の労作であると共に、神道とどのような関係を結ぶべきかについて現代のキリスト者にも決断を迫る問題提起の書でもある。

著者ほん・いびよ氏は1976年韓国江原道生まれ。延世大学校神学部及び法学部卒業後、同大学院で神学修士及び神学博士学位を取得。渡日し、京都大学大学院文学研究科(思想文化学専攻キリスト教学専修)で文学修士及び文学博士学位を取得。京都大学などの非常勤講師を経て、山梨英和大学人間文化学部の准教授及び宗教主任として務めた。基督教大韓監理会(KMC)から牧師接手を受けた後、宣教師として派遣され、日本キリスト教団兵庫教区甲陽園教会、同教団京都教区丹後宮津教会で牧会活動をした。主に日韓のキリスト教関係史、宗教思想史などを研究している。

◆ A5判・640頁・定価7700円

3月25日発売

【目次より】

《第1部》近代日本のキリスト者における神道理解

解

第1章 松山高吉などの「神論」的な神道理解

第2章 海老名の「ロゴス・キリスト論」的な神道理解

第3章 海老名の「帝国神道的」キリスト教と弟子たちの「三位一体論」的な神道理解

解

《第2部》海老名弾正と大正デモクラシー世代の社会思想

第4章 海老名と大正デモクラシー世代の神道理解及び社会思想の形成

第5章 海老名と大正デモクラシー世代の「帝国」及び「植民地(民)」理解

第6章 海老名と大正デモクラシー世代の「神の国」及び「社会主義」理解「帝国」と「植民地(民)」理解

梅津順一著

蘇峰・諭吉・鑑三

ナショナリズムと
キリスト教

日本を近代国家として形成するための思想基盤を追求した福沢諭吉、内村鑑三、徳富蘇峰。「平民主義」を掲げて論壇デビューした蘇峰は、列強が角逐する帝国主義的状况を前に「力の福音」に転向し、晩年は「大東亜戦争」を鼓舞するに至った。その長い思想のドラマを丹念に辿った講演・論考集。
四六判・予価3900円

ヘルマン・フイツシャー著／伊藤慶郎訳

シュライアマハー

生涯と思想「仮題」

シュライアマハーは、近代において最も重要なプロテスタント神学者である。神学のみならず哲学で、またプラトンの翻訳者として卓越した業績を残した。本書は、シュライアマハー全集の編集責任者だった著者が、最新の研究動向に基づき、伝記上の重要な出来事や作品の概観に加え、彼の哲学・神学作品全体の解釈を提供する。
四六判・予価3500円

ヴォルフハルト・パネンベルク著／佐々木勝彦訳

組織神学 第二巻

邦訳全三巻がついに完結。この第二巻では、創造論、終末論、人間学、キリスト論、和解論が独特無比な仕方でも展開され、20世紀の後半における最大の組織神学的収穫であるパネンベルクの体系の、中核と全貌がここに明らかとなる。
A5判・予価9000円

● 2月に出版の本と雑誌

排斥と抱擁

アイデンティティ・他者性・
和解の神学

ミロスラフ・ヴォルフ著／彦田理矢子訳



異質な者を憎み排斥する者を、私は愛し抱擁できるのか。暴力が猛威を振るう世界の中で罪と赦しの問題を徹底的に考える。凄惨なユーゴ内戦を経験した著者の霊的旅路の記録でもある。待望の邦訳。
◆ A5判・定価7920円

聖書翻訳と宣教

吉田新著 日本語訳聖書関連資料の研究



口語体から文語体、そして再び口語体への変遷に注目し、膨大な資料に基づいて先人の労苦を辿りながら、狭義の言語論を超えた宣教論の観点から新たな翻訳論を切り拓く。
◆ A5判・定価6600円

福音と世界

3月号 特集Ⅱキリスト教と政治
政治神学の可能性

◆定価660円

特集寄稿…加藤喜之、岡野彩子、伊藤孟、森島豊、三野和恵、

洪伊杓

時評 第二次トランプ政権下の大学弾圧とキリスト教（木村智）／連載 富田正樹、長尾優、戒能信生、福嶋揚、陶山義雄、田島卓、山崎ランサム和彦

出版部から

三月の新刊『帝国の神道とキリスト教』（洪伊杓著）と、四月の新刊『蘇峰・諭吉・鑑三（梅津順二）』は、日本が近代国家に離陸していった時代のキリスト教を扱っています。前者の主人公は組合教会の大立者だった海老名弾正。彼はキリスト教が日本の国家体制と対立しないことを弁証するために神道とキリスト教の融合を試みました。後者の主人公である徳富蘇峰は平民主義を掲げて論壇デビューしましたが、やがて「力の福音」に転向し、晩年は「大東亜戦争」を鼓舞するに至りました。二人が生きたのは、列強が角逐する帝国主義の時代です。まさに軍事力が物を言う闘争場裡の世界でした。二一世紀の今、ウクライナ、ガザ、ベネズエラ、イランで軍事大国の振る舞いを見ると、世界を覆うものは依然として、あの二人が見たのとまったく同じ力の論理です。私たちが「力の福音」の誘惑に抗して踏みとどまるにはどうすればよいのでしょうか。ある神父はこう言いました。「私たちは、非暴力のイエスが生き方、愛し方、祈り方、仕え方、……不正義に抗する仕方、平和の作り方、赦し方、苦しみ方、そして死に方を、新たに教えておられることを再発見します」（ジョン・ディア著『イエスの道』）。

（小林）

販売部から

ローマ人への手紙はパウロの真骨頂であり、最初の「組織神学」の書であると思います。テーマは「神の義の啓示」、神の義とは信仰による義と私は理解しています。昨年二月に小社から刊行された『新しいパウロ』（N・T・ライト著、前川裕訳）は、パウロの福音理解を新鮮な目で読み直し、彼が宣教した内容を再確認するのにお勧めです。特に本書の5章はパウロの神に関する理解に関して著者と共に再考する箇所とされます。例えば「イエスの死が神の愛でわれまます。例えば「イエスの死が神の愛であることを他のどこよりもはっきり表しているローマ書5・6-11のような言葉が意味を持つのです。これは、唯一なる神の具体的姿がまさにイエスであると理解するときにのみ主張することができます」（167-168頁）。次に「パウロのトローラー観は明確で、好意的なものです。律法が否定的に働いている時ですら、それは神の法であり、聖くまた正しく、良いものであり続けます。（ロマ7章）」（180頁）。これらはパウロがユダヤ的な唯一神信仰を再定義する方法を検討する時に明瞭となると思われます。最後になりますが、特にパウロが実践した使徒的働きがどのようなものであったかについて、本書を通じてぜひお読みください。

（坂谷内）

福音と世界

2026年
4

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料（送料共）8760円

特集・フィリデルで思考する

——教会で、日本で、世界で

村の牧師の神学——ノールトマンズと

オランダ改革派教会

石原知弘

伊東における教会公共性の形成

木下至太郎・早川谷 配を手がかりと
する地域史の継承

山口光仕

研究と運動の往還

板橋というフィリデルから——和田 悠
現場で聞くこと、そして耕すこと

——タイ、そして日本で——齋藤百合子

フィリデルが教える記憶と思考

——ハンセン病療養所を訪問して——阿部伊作

破れ口に立つ者とは誰か——中島 学

時評「乗つ取られる」ボンヘッファー……島田由紀

書評 川中子義勝『ドイツ・ノラールの詩人たち』……宮谷尚実

【新連載】

◆ズレズレなるままに 1 ……川口 弾

【好評連載から】

◆私が出会ったことば 2 ……川本隆史

◆人物・日本キリスト教史 10 ……戒能信生

◆ぼやき牧師のさすらい説教録 13 ……富田正樹

◆異端者の世界航海 13 ……福嶋 揚

◆証言としての旧約聖書 24（最終回）……田島 卓

◆新約釈義 ルカ福音書 52 ……山崎ランサム和彦